

医学科

学科のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

<求める入学者像>

医学部の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」です。これは、「医療人は生涯にわたって病める人の身になって病苦と取り組み、人々の健康と福祉に貢献する」という精神を含んでいます。この基本理念に基づき、医学部は医学・看護学の知識や技術を教育するだけでなく、人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を育み、深い洞察力と生命倫理や生命の尊厳に対する深い認識を備えた医療人の育成をめざしています。また、進歩する医学・医療を生涯にわたり学習し続ける態度を身につけるため、少人数による課題探求型の教育にも力を入れています。地域医療を含む日本の保健・医療・福祉に広く貢献できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、推薦入試や学士編入学などの様々な入試方法も採用しています(入試枠によって出願要件が異なるので、詳しいことは学生募集要項で確認してください)。

医学部・医学科では次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解、思考・判断)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

1-1) [全ての入試枠] 高等学校で履修する五教科(国語、数学、理科、社会、外国語)の広範な知識を有している。

1-2) [推薦入試] 長文の英文や和文の文章を理解し、その内容およびそれに関連した事項について、受験時までの学習や経験を踏まえつつ自らの考えを日本語で適確に表現できる。

1-3) [前期試験] 高等学校で履修する数学および理科(物理、化学)について深く理解しているとともに、長文の英文を読んでその内容を理解することができる。

1-4) [後期試験] 医学・医療や生物学に関する英文を読んで理解し、その内容に対して自らの考えを日本語で簡潔に表現できる。

(興味・関心・意欲、態度)

2. 人間が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。

4. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

(技能・表現)

5. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

学士編入生(2年次編入)のアドミッション・ポリシー

(知識・理解、思考・判断)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している(入学時には4年制大学卒業以上の学歴が求められる)。

1-1)大学の教養教育課程レベルの自然科学系科目について、十分に理解し知識を有している。

1-2)大学・大学院等での自らの学修や研究の成果を、簡潔かつ具体的に示すことができる。

(興味・関心・意欲、態度)

2. 人間が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。

4. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

(技能・表現)

5. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

<入学者選抜>

AP1

基礎学力の評価のために、大学入試センター試験では5教科7科目を課している他、個別選抜でも筆記試験を行っています。また、医学教育のグローバル化に対応して、全ての入試枠で英語の理解力を求める筆記試験を導入しています。

AP2～6

医師を目指す者としての適正を含む受験生の多面的・総合的な評価のため、全ての受験生に面接試験を課しています。面接では、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校等や学校外での様々な活動についても質問します。

※ 地域特別枠推薦入試では、大学が行う試験とは別に、愛媛県担当者による面接がありません。

学科のカリキュラム・ポリシー(CP: 教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成と教育内容>

入学当初から1年間のカリキュラムに、特に重点を置いています。グループ学習が中心となる「新入生セミナー」では、大学で学ぶとはどういうことか、自学自習するとはどういうことかを、医学・医療に関わる題材を用いて、グループメンバーや教員とともに考えます。医学の基本と

なる解剖学や生理学等の医科学の基礎を少しでも早く身に付けるために、1年次の4月から「基礎医学展望」を受講します。この科目は高等学校での学習から医学専門教育への橋渡しを行うものです。1年次(通年)には、城北キャンパスで他学部の学生とともに学ぶクラスもあります。また本学の特徴として、学生の研究マインドを育てるために、1年次5月から研究室配属を行い、先端医科学の研究を体験・実践します。

1年次後学期から基礎医学系科目を広く学び、3年生では臨床医学の基礎を、4年次では応用的な臨床医学各科目を学びます。全国医科共用試験(CBTとOSCE)を経て、4年次の1月から大学附属病院の全ての臨床科での導入型臨床実習が始まります。また県内各所の病院に設置された愛媛大学サテライトセンターでも臨床実習を行い、地域医療の最先端の現場を経験します。5年次の冬から6年次の夏までは、それぞれの学生がした附属病院の臨床科や県内各地の医療機関で、さらに高度な選択型臨床実習を行います。

医学科の必修科目を履修し医学部規則に定められた単位を取得することで、大学憲章に掲げた5つの能力を修得することができるようにカリキュラムが編成されています。

<教育方法>

医学科では、国際水準(グローバル・スタンダード)に対応したカリキュラムを構築するために、平成28年度の新入生から新しいカリキュラムに移行しました。新カリキュラムでは、臨床実習を4年次の冬から行い、実習内容を量的にも質的にも向上させます。平成27年度から、専門教育の授業時間を1コマ90分から60分に短縮して学生の集中力を高めると同時に、日々刻々進歩している医学知識の増大に対応しています。カリキュラムには6年間を通して様々な実習授業が組み込まれ、グループ単位での能動的な学習が求められています。さらに、チーム医療教育のため、1年次からグループ学習や看護学科等との合同授業を開講しています。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。学年毎の進級には一定の条件があります。これに加えて、全ての学生は4年次には全国统一の学力・臨床技能試験である全国医科共用試験(CBTとOSCE)を受け、合格後は4年次1月から始まる臨床実習に参加します。6年次には、客観試験による全臨床科統合型卒業試験とpccOSCE(臨床実習後の臨床実技試験)により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行います。

<カリキュラムの評価>

統合型卒業試験を含む全ての授業の成績、全国医科共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的に行います。

学科のディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<学部の教育理念と教育目的>

『患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療』という医学部開設の基本理念に基づき、教育目的を次のように定めています。医学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的としています。

さらに医学科においては、学部の基本理念に基づき、我が国における医学水準の向上を図り、その成果を国民の保健衛生及び医療に正しく反映させるとともに、地域社会に貢献することを目的としています。

<育成する人材像>

愛媛大学の基本理念に基づいて、「学生中心の大学」として学生の多様な志向性を尊重した医学教育を提供することにより、地域から求められる役割に応え、地域発展を牽引し、患者のために全人的視点から最善を尽くす医師・医学研究者を育成します。また優れた研究医養成モデルを構築し、基礎・臨床研究や橋渡し研究を担う人材を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

- 1-1) 医師としての専門分野の学問内容の知識を修得している。
- 1-2) 自然科学にとどまらない医療人としての幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 2-1) 分子レベルから集団レベルまでの生命現象を解明する適切な方法を指摘し、明らかとなった現象を簡潔に表現して第三者に伝えることができる。
- 2-2) 患者と家族の身体的・心理的・社会的な健康状態および疾病の状態を把握し、情報を総合することによる適確な判断に基づいて、必要な行動を示すことができる。

(興味・関心・意欲)

- 3-1) 社会の医療ニーズの変化に対応して、適切な方法で最新の医学知識や医療情報を収集・整理し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 4-1) 都市部から辺地までを包含する地域において、患者中心の医療の担い手となる医師として責任をもった行動をとることができる。
- 4-2) 医学の進歩のために基礎・社会医学と臨床医学との両面での研究が不可欠であることを認識し、自らも研究マインドをもって医療を行うことができる。

(技能・表現)

5-1) 基礎的な医療行為を患者にも自らにも安全に実施することができる。

5-2) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーション(簡単な英語によるものを含む)をとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。

<卒業認定・学位授与>

医学科に6年以上(学士編入生では5年以上)在学し、医学部規則に定められた単位数を修得した学生に対して、卒業を認定し学位(学士[医学])を授与します。卒業判定には、6年次までの全ての単位を修得していることに加え、客観試験による全科統合型卒業試験とpccOSCE(臨床実習後の臨床実技試験)の結果を用います。

医学科を卒業した学生には医師国家試験受験資格が与えられます。